

ケモロリ神様
収録台本

キャラクター：サヤ

ファイル：b04_p01

◆ □ ◆ 僕を守護してくれるケモロリ神様と抱擁応援甘えんぼセックス ◆ □ ◆
▼ パート1 : 押しかけ神様の応援

● SE : 片付けをしている物音

六畳一間の下宿。畳の上は散らかり放題。
その部屋を掃除しているサヤ、一区切りつけて満足げ。

◆ 位置・正面・サヤ視点。

say_a_b04_p01_001
「——よし、」んなもんじゃな。ふう、まだまだ
散らかっておるが……そろそろ帰つてくのじやねう」

● SE : 足音近づいてくる

サヤ
say_a_b04_p01_002
「ぬい・ぬぬー~」

● SE : ドア開く＆閉じる

◆ 補足：主人公視点に変更。

主人公、不在のあいだに片付いた部屋を見て驚く。

◆ 位置・背面：部屋の中央で驚く主人公の後ろから登場。

say_a_b04_p01_003
「おぬし、掃きだめの如く部屋で寝起きするのは改めるがよい。清浄な心身を保つためにも、適度な清掃と」おめな整理整頓が必要じゃ」「う~」

say_a_b04_p01_004
「ん……なんじゃその顔は。まるで化け物にでも会(お)うたよくな面(つら)じゃのう?——おばけ? 妖怪? わようなケチ臭い連中と一緒にする

◆ 位置・右隣：主人公の横をすり抜けながら正面へ。

say_a_b04_p01_005
「ん……なんじゃその顔は。まるで化け物にでも会(お)うたよくな面(つら)じゃのう?——おばけ? 妖怪? わようなケチ臭い連中と一緒にする

サヤ

サヤ

サヤ

ヤヤ
「……。やの田で見るのは初めてか？

そうじかるう……

◆位置・正面…主人公の正面

わしはサヤ！ おぬしの本家で祀られておる真神（まがみ）の眷属じや。…む、今なんと申した！？ わしのどこが狐に見える！？ わしは狼！ 大いなる神、狼じや。信心不足を改めよ。まつたく！」

「…………ああ、無理もなかろうな。おぬし、頼むべくわしへの縁（えにし）が細つておつたからね」「

「ねしも、もひと早（はよ）う来るべきじやつた。なんとなく虫の知らせで様子を見に来たのじやが……部屋の有り様やおぬしの挙動を見るに、不遇が募つておるよづじや」

saya_b04_p01_010
「顔色もよくなかった……話を聞かせてくれんか?」

話を聞くサヤ。適度に相槌。

...ナウか...」
「えー? わたし...」「うん、なほほん...」

saya_b04_p01_012

おるのじやな。なあに、おぬしは悪くない。今日までたくさん頑張つてきた、その努力はわしにはよく分かる」「

サヤ

saya_b04_p01_013
「よしよし、故郷を離れ家族も遠く、一人で心細かつたわづになあ…」

サヤ

saya_b04_p01_014
「よいか、おぬしとわしは家族も同然。いや、それよりももっと深い縁（えにし）に結（む）われておる。おぬしを守護し助ける」とは、わしの役割…遠い祖先からの約束じや」

サヤ

saya_b04_p01_015
「遠慮する」とはない。わしの胸へ来るがよ、」

◆補足：主人公がなかなか来ないので、強調して促す

サヤ

saya_b04_p01_016
「…どうした？ わあ、来ーるーがーよー、…遠慮する」とはないぞ！」

主人公、サヤに飛びつく。

◆位置・正面密着：至近距離。由こわせやお世

サヤ

saya_b04_p01_017
「おおら、やうじややうじや、素直に由えどよ、のじやだ。わしからすれば、おぬしなどまだ『ややじ』『』回然。愛しくてならん、大事な子じや。わしが護るべき大事な大事なややじや…」

saya_b04_p01_018
「よしよし、よくがんばったのう。よし、よし…」

サヤ

saya_b04_p01_019
「…おぬしやれば、しばしの間、わしも」の家で寝起きを共にしよう。飯を炊き、居（きょ）を清め、おぬしの身辺の世話を担（うけ）て心を支える。どうじや~」

◆位置・右隣遠：ちょっと離れて部屋を見渡します

saya_b04_p01_020
「そのつもつで、手始めに掃除をしてみたが…まだ途中でな…」

サヤ

◆演技・本を拾つまでは、しかたのなじやうじやのう、とじやか、からかい氣味の柔らかな口調

カヤ

say_a_b04_p01_021

「んー?おぬし、丑しひせなしの癖があるよつ
じやの。」Jの書物も、読み終わった都度、棚に戻せ
ば散りかかるや。ほれ……ん……んん……」

H口木や原レコザカヤ。慌てぬせ人々。

say_a_b04_p01_022

「なう……なんじや」「れせーへ、へ、へえ、へひわなや
つじせないか?...?」

照れ隠しで怒るカヤだが、興味津々。和風の和題に本をもくとSEなど。

◆演技：照れ隠しの弱めのお怒り

say_a_b04_p01_023

「Jのよつな本、ほっぽりだす奴がおるか…」
年頃のおのJの船屋じや、かよつな本を持ついと皿
体は咎むなが…」

say_a_b04_p01_024

「それHしても…せ……時代の笑い絵とせ、Jのよ
うに押かれておるのか…ふむふむ…むーへ、ふ、ふ
わあ…なんじやJの…せれんちな格好は…」

say_a_b04_p01_025

「J、Jかも」の木十「…わしへりへりな耳と尻尾
おどついておぬごじやが…」

段々好奇心をもねだり&J嫌い。

say_a_b04_p01_026

「ねぬ…」れを用いてセンブリを…へ、へ、へつか
……ふむ、ふむ…。ふ、む…」

●SE:本を閉じる。

◆位置・正面：主人公の前まで来て真剣な問J

◆演技：真剣

say_a_b04_p01_027

「……S!」。…わしとJの「Jをしただ、やの…
おぬしさ、元氣を取り戻してくれるやじやわいか
……」

主人公：惑わ（「やんな！」とまで頼んで、この……。）

◆演技：悶じか

saya_b04_p01_028
「おぬしが元気で健やかであるのが、わしの願い
じゃ。そのためなら、わしさおぬしになんでもしよ
う！」

●SE：また本を譲り受けました。

◆演技：面白かわい

saya_b04_p01_029
「……ふふ、 われにしても見事な笑い絵じや。おぬし、
見る目があるのね。」のふわふわの耳も、もふもふ
の尻尾も、わしの血漫じや～」

まだ遠慮がある主人公だが、股間に勃起してしまった。
(主人公：「や、やいせっ！」となるだめだつて……) 「

saya_b04_p01_030
「んー～。口ではやのよつてに申すが、身体のほうは求
めてもおねがいじやが～。ふふふ…あつたかいの？
大きく膨らませて、愛（い）こやひじやの～～」

◆位置・左隣密着：耳元で囁き

saya_b04_p01_031
「わわ、 力を抜いてわしに身を任せや～……」

◆位置・正面下：くしゃくしゃ腰掛けさせて主人公のズボンを脱がせて下半身を露出
れせる

saya_b04_p01_032
「ほれ、や！」に座つたら下を脱いで魔羅（まら）を…
…、ふ～、その本の通りに申すと…『おわづけ』
じやな」

saya_b04_p01_033
「お～、くしゃくしゃ、だくまじごおわんぼしおつてか
りに～、わいわせ『やや！」と申したが…！」は立
派に『おのい』じゃね～

キャラ

サヤ

saya_b04_p01_034
「熱くド、大あくド…かつちかちに固い…つむ、かつ
い…」
「…。おのしたる者、やうでなくはな。よい
おちんぱじや。…心配ないぞ、」れなら丈夫なやや
「」を孕まセねじやわい。…れト—」

手口キ開始。

◆位置・右隣密着：主人公に抱きつき、耳元で甘く囁きながら手口キ。

saya_b04_p01_035
「よしよし、よしよし…眠持ちよじか…? まだ緊張
して、強張りとねるよつじやな。力を抜いて、快
(イイ)感覚に集中するのじや…まれ…よし
よし…よしよし…ふふ…」

saya_b04_p01_036
「じょりすじや、その調子じや。そのままわしに身を
委ねて、わわわよーくなつておればよこへ…お
ぬしさ良じや、かわいこの…よしよし、な
でなで…」

saya_b04_p01_037
「ふふふ、」…ん…ひ、せわせわんばかりに張
り詰めとねり…」れを夜!」とひととで、持て余して
おつたれり…もひと呼べ来てやるべやじつた
の…」

saya_b04_p01_038
「ほれ、もひとつ並んでよこせ… わしにわせーひつ
かまつて、こいつはい氣持ちよくなつておれへ」

saya_b04_p01_039
「ねしの手もあつたまつにれた…えいじや…? なで
なで、よしよし…ふふふ、おな、案外かわいく端
ぐの。なにや、こひなじ」としゃべつて、「氣分
じや…」

サヤ

サヤ

サヤ

サヤ

サヤ

サヤ

saya_b04_p01_040
「はあ、はあ…わしもで身の内が熱くなつてしまた…
はあ、はあ…ん…」

サヤ

saya_b04_p01_041
「ねしの手でせきみ切れたの…よしよし…ん…
はあ、びくびく震えておる…！」がよこのか?
どうせつのはぐくの溝を、わきひとな…」

サヤ

saya_b04_p01_042
「鋸口のよだれも！」「う、ぬりぬり…ん、ふふ、た
まらんよハジヤのう。ちゅくちゅく響いてきたぞ…
ふ、ふ、」れ…腰が跳ねて…暴れ馬じやのう。元
氣どよこ！」じや…よしよし、よしよし…」

サヤ

saya_b04_p01_043
「ねしの小さな指先は、おぬしの鋸口にひつたりじや
のう。尿道口に、！」「せんのちよつと差し込む
と…ぽじほじ…ふ、ふふ…」たまらんか…」

サヤ

saya_b04_p01_044
「よだれが溢れてくるのう…よしよし、おぬしがやう
やつて腰を震わせて顔を蕩かせるのは愉快じやのお
…よしよし、！」「…」「…」
かくやく…」

サヤ

saya_b04_p01_045
「んー…わい無理となー…それはどういふ意味な
のじや…ふふ、気持ちよくて田代しまじやつの
か…それはなにようじや…」

サヤ

saya_b04_p01_046
「よー、存分に出すがよー。せ、せ、せ、あ…」

サヤ

saya_b04_p01_047
「その顔、わいたおじさんのじやな? 射精したがつて、陰嚢がびくびく震えておるな。よしよし、すべて田舎がよぶへ」

サヤ

saya_b04_p01_048
「おぬしが氣をやねど」「ひを、わしがしつかり見ていてやねりへ……れお田舎、田舎がよぶ……んつ……ほれ、ほれへ」

ヰ主人公、射精する。

saya_b04_p01_049

「おおへ……へ んうへ……あ……ふう……か！」ご勢いじや……じつぱー田たのう……「んなに濃い子種を注がれたら、すぐこも孕んどしまことうじやの……へ」

saya_b04_p01_050
「よしよし、頑張ったのう。舐めかよくなつて、えりかつたのう。ふふ、こう！」じや、こう！」

saya_b04_p01_051
「！」豪美に、わしが綺麗にしてやねり。なこを恥ずかしがつておるへ。わしひはおぬしの母語をするために来たのじやからな」

◆位臵・凹面下：足の間に移動し、ペースにつけた精液を舐め取る。

saya_b04_p01_052

「！」の田くて濃い樹液のよつた精液も……ペロッ、呸、呸、呸……わしが舐めて綺麗にするわ……ペロヘ。ぐるぐる……」

saya_b04_p01_053

「んんへ、咲にからみつくなつて」「味じや……近！」わば相撲廻ぬ込んでおつたのじやな……かわいそつこ……ちゅ、ぺろ、ぺろぺろ……」

サヤ

サヤ

サヤ

saya_b04_p01_054
「ちゅ…ちゅつ。ふふ…やひびくするな、力を抜いておれ。ちゅつ、ちゅ…れるつ…れるおおつ…んべたべたじやのお…ちゅつ、ぐるぐるつ、ぐる…ちゅ、ぺろつ…ぺろペロ、れるおおつ…」

サヤ

saya_b04_p01_055
「れろつ、れろお…ト生えのなかにも、沁み込んでおるの…ちゅつ、ちゅつ、ちゅぱつ、ちゅ…ちゅつ、ちゅつ…」

サヤ

saya_b04_p01_056
「んう、ふう…ちゅ、はふう…、はあはあ…ちゅ、れろおつ…れろれろ、ぺろつ…ちゅつ、ぺろつ…ん…れろおおう…ちゅ、ちゅちゅちゅちゅ…」

サヤ

saya_b04_p01_057
「おお…」カリ首の溝の奥に…ちゅつ、ちゅくつ、レロッ…」んなに指をため込んで…、レロッ、ちゅくつ、ちゅくつ、ちゅくちゅくつ…んつ…んんくつ、雄の匂いがしてきたのお…はふ、はあ…はあ…んつ、ちゅ…」

サヤ

saya_b04_p01_058
「ふふ…おぬし…どいたのじや? そんなにびくびく震えて…身体中に力を入れて…わしの由が、そんなに気持ちよいのかお?」

サヤ

saya_b04_p01_059
「」も…チユツ、まだ子種でぱんぱんに膨れておるよつじや…ちゅつ、ちゅ…はむつ…」

サヤ

saya_b04_p01_060
「…申しだだり、遠慮などせずともよ…」つぱい気持ちよくなつて、元氣になつてほしのじや…」

カヤ

sayab04_p01_061
「今、わしにできるのせ…かなり、かせ…」いや
ておぬしを慰める」とださじや…。あ、わらひ…
はむつ…」

フリハ開始。

◆位置・正面下：位置は変わらず、足の間

カヤ

sayab04_p01_062
「んひ、ねいきこのお…わしのね口がこひぱこになつ
てしまつ…さむつ、んつ…じをかせつ、ちを…ふつ
…ひ、んひ…せふ、はあ、せあ…」

カヤ

sayab04_p01_063
「あむつ…んむつ、ちをむつ…ちを、ちを…
ちを…」
わせつ、じをねねねねねね…ひ、せふつ…
ふつ、ちを…ひ、ちを…ひ、ちを…ひ、
ちを…」

カヤ

sayab04_p01_064
「んふうひ…ひ…ひ…ひ…ひ…ひ…ひ…ひ…
るのね…れれひほからまた濃ぬじつゆが溢れてしまった
や…。ちをひ、ちをひ、ちをひ、ちをひ…」

カヤ

sayab04_p01_065
「はあ、はあ…わしの口をおまへ」だと思つて、
びゅーびゅー出して構わんかいの、ちをひ、
ちをひ、ちをひ、ちをひ…ひをぬぬぬぬぬぬ
ぬひ…。ちを、ちをひ…ひをぬぬぬぬぬぬ…」

カヤ

◆補足：射精する主人公

sayab04_p01_066
「んひ…。んんんひ…んひ、ン…ひ…、
ふつ、ちをひ、ちをひ…」
わせわせ…せふつ、せふつ…せふつ…

サヤ

saya_b04_p01_067
「はあい、はあい、はあい……濃い……ふくり、
ちゅう……ちゅう……ふく……」

サヤ

saya_b04_p01_068
「おぬし、まへもまあ」れだけの固い精液を蓄えて
おったの……」ぱぱぱぱせいで、えらかつたぞ……」

サヤ

saya_b04_p01_069
「わしの咲でござい感じてくれて、嬉しいのお、愛
しこのね……ふふ……」

サヤに礼を言つて主人公。

◆位置・正面：立上がりのサヤ。主人公と四線の幅が合つ。

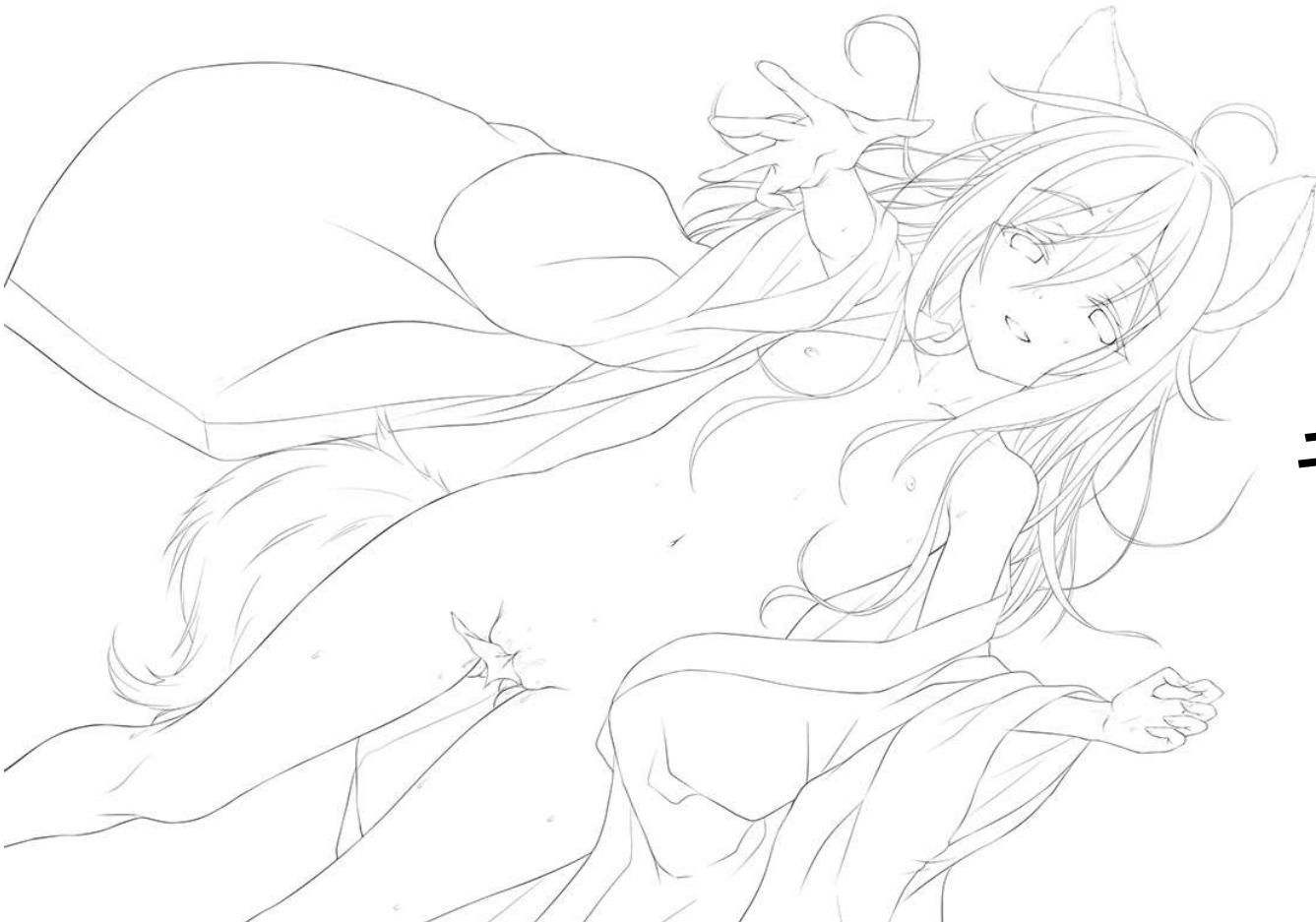
サヤ

saya_b04_p01_070
「礼など申すでない、わしとおぬしの仲ではないか。
つむつむ、いつでも頼つてよいぞ。これからわし
は、おぬしと共に暮らすのじやからね」

サヤ

saya_b04_p01_071
「いーいぱい咲で奥じのじやからね、いむつ、
よひしく頼むのじやふ」

▼パート一終了



ケモロリ神様
収録台本

キャラクター：サヤ

ファイル：b04_p02

◆□◆僕を守護してくれるケモロリ神様と抱擁応援由来なぜセックス◆□◆
▼パート2：お祈りの儀式えつち

●SE：料理する音

◆位置・右遠：少し離れた台所で料理するサヤ

sayab04_p02_001
「ふんふんふーん、ふんふんふーん、んん、でき
たよつじやのお、おぬしよ、夕餉（ゆうが）の支
度が整つた… 我ながらよじ出来じや…」

sayab04_p02_002
「わしは火難守護も同る真神じやから、炊事の腕も
確かなのじや。…なんじや、前にも話したか？ ん
~、永く生きとおると想れつぽくなつていかん
の。くしき、容赦してくれ」

サヤ、主人公の膝の上に座る。

◆位置・正面下：主人公の膝の上

sayab04_p02_003
「わで、おぬしよ。…やつじや、ijiがわしの定位置
じや。おぬしの膝の上は居心地がよいからのお。
ではー、いただきます、じやへ」

sayab04_p02_004
「ふーふー、ほれ、餌掛けちやーさんは熱いから、
口の中を火傷しないよつこ…ふーふー、ふーふー…
わしがしつかりふーふーしてやるわ…それ、あー
ん」

sayab04_p02_005
「なにを照れておる？ あーんせい、あーん」

主人公、あーんする。サヤ、上機嫌。

sayab04_p02_006
「…つむり、つまいが？ そおかそーか、何より
じやへ…なんじや、すーべ顔を曇らせるつて…あ
た『しづづか』か？」

サヤ

saya_b04_p02_007
「んんー、どいつもこいつも見る田のない連中じゃ
のお、左様な下らん輩に奉公する必要はない。お
ぬしの努力は、」のサヤがよおーく分かつておる。
なに、じきに果報が届くであろう」「

サヤ

saya_b04_p02_008
「やうじゅー、おぬしの開運を祈願し、ひとつ儀式を
執り行おつかの。なに、手順は簡単じゃ」

●SE：衣擦れ

◆位置・正面：立上がるサヤ

saya_b04_p02_009

「ます、わしさ」のらぶりいな割烹着を脱いで……よい
しょり、かよつに薄衣を身に纏い……次に必要となる
のは、これじゃ…」

サヤ、酒を口に含み、主人公に口移しで与える。

●SE：酒瓶を開ける音

◆位置・正面至近：主人公の腰に正面で座り直し、顔を近づけて口移し。しゃり
く近づけたまま

saya_b04_p02_010
「酔なる神酒を……んくつ、ん……まやかす（）」しゃり
て）、ほぬしに（おぬしに）……んつ、ちゅつ……ちゅ
るつ、ちゅろろろり……んくつ……ふう……飲んだかの
……~」

サヤ

saya_b04_p02_011
「くしゃくしゃ、おぬし、酒のほうはまだまだのよつ
じやな。喉が焼けるか？ それでよこよこ。身体が
ぽかぽかするじゃろ~？」

サヤ

saya_b04_p02_012
「それ、もう一杯……んくつ、んつ……ちゅぱつ、ちゅ
ずつ……ちゅろろり、ちゅぞつ……んつ、んくつ、ちゅ
ふう……よしよし、じゅうすに飲めたようじやな
~」

●

主人公反撃。サヤの舌を吸い、唾液を飲ませる。

「さあ、さあい……ぬるーの唾液……歯の味があるのね…
△ ちゅう、れろおつ、ちゅう、そふつ、ちゅう△
……そつ、そつ、△

Saya_b04_b02_015
「口移しじ、」——ふんしたのかのおい。ぬぬしのおぢ
んぼ、元氣になつておるや。わしさ元氣なぬし
が大好きじや……」

「よしよし、可愛がつてやわらかのお……よしよし、よ
しよし……んへ、」れ「れ……おぬしの手が、わしの衣
を開いておるが……」れはいかなるいたずらじや。」

「んへ、ねり……ねり……えりへ……せあ、せあ……ねり、
んへ……おぬしの指……一人前におんなを喜ばせる妙技
を……り、んへ……じつのもにゃれほどの痴女衛になつ
たんじや……ふるひ、ふあひ……なあ、なあひ……」

◆補足：ディープキス、唾液交換

サヤ

saya_b04_p02_019
「ふふ…」いやつらの氣を交え、精を交わす」と、わしの體力をおぬしに注ぎ、體の氣を祓うのじや…ああ、ああ…わひと、咲を…」

サヤ

saya_b04_p02_020
「んぐ、せふ…ちゅう、ちゅる…はあ、はあ…おぬしの唾液せ皿このお…むつとね…じゆるひ、じゅひ…んぐひ、んちゅ、ちゅう…はあ、はふ…んひ、んひ、じゅるるるる…んふ…」

サヤ

saya_b04_p02_021

「んぐ…はあ…わしのあわ」か、ふろかで始めた…△じんじん、熱く疼いておる…おぬしの指は咲のよう尼に動くのお…くすぐられて、ほじくられて、腰も砕けやへじや…ん、んあ、はあ…はあ、ん…」

◆位置・正面：顔を離して立ち上がり、布団に向かうサヤ

サヤ

saya_b04_p02_022
「闇（ねや）く来（い）よ、おぬしよ…ふふ、もう堪（いき）えがきかぬ様子じやの…遠慮するでないぞ？ おぬしの好きなように貪るがよ…」

◆補足：ベッドへと移動します。回り室内です。

◆補足：布団の上に横たわるサヤ。

●SE：布団に横たわる

◆位置・正面ト・正席位、横たわったサヤの足の間にいる主人公。

サヤ

saya_b04_p02_023
「わあ、儀式の仕上ナジや…わしのおまえ！」…おぬしのぬかんせ、こーいぱい、か！」、「か！」あるのじや」

「ああああああ、すいすい」と、たいつかん、気持がよくなつておくれへ、

挿入する主人公

サヤ

saya_b04_p02_024
「ンシ…あひ、あお…入つた、ああひ…♪ んひ…
んひ…はあひ、くふひ…相も変わらず、立派なおち
んぽじやのね…んひ、く…せあ、はあひ…んひ…
あひ…」

サヤ

saya_b04_p02_025
「！」の身が童子（どりわい）同然であるのが惜しいが…
「ハ」で窮屈な感じをするのも…おぬしを強く感じ
られて、懸くないのお…んひ…んひ、あ…」

サヤ

saya_b04_p02_026
「—ふふふ…じょひょじや、その調子で、奥まで—
—ひ、あシ…んひひ… はあ、はあ…」

◆補足：手を繋ぐ、ピストンを叫ぶ主人公

◆位置・正面近：正面位のまほ手をひいて腰をかがめて、田の前まで顔を近づけ
る主人公。

サヤ

saya_b04_p02_027
「おぬしよ…手を…。ハハジや、机をうつと握つてい
て…んひ、あ…れもわざ…せあ、はあひ…せあ、
はあひ…ンシ…」

サヤ

saya_b04_p02_028
「あひ、あひ…あんひ… はひ、はあ、はあひ…
んひ、あひ…！ ふうひ、う…ンあひ…
ふひ、ああ…雄々しい動きが、奥まで響いて…」

サヤ

saya_b04_p02_029
「んうひ、あひ…ふうひ…んひ、んやあひ…はあ、
はあひ…」

サヤ

saya_b04_p02_030
「あひ、あんひ… あんひ… んやあひ… 奥、
にひ… わしのおひ、おくひ… ドーリーひ、匂い
て…」

カヤ

saya_b04_p02_031
「選じいねわんぱが、十四に撒きしるひへ わい、
んああいー ひやうあい、ふうひーー はあ、
はあい、はあい、はあい……」

カヤ

saya_b04_p02_032
「奥固くたび…頭のなか…せわばか、火花が散つて…
あい、んい…あい、あい…、わわわわ…おぬ
しおわんぱ、大好き…♪」

カヤ

saya_b04_p02_033
「んん? わい、イキたい…? ょうど、わしの奥に
たつぱつ泣く声くれるな?」

カヤ

saya_b04_p02_034
「ほれ…おまえ!」もおぬしに縋りついとおる…んい、
あ…わいじや、奥に入れだまよ、もひとずくすんし
てほし…」

カヤ

saya_b04_p02_035
「んい、あい…あい、あい…躁くよ!」わい、ずんず
ん、われるとおい…んふやあい、わわわよくい、た
まらなーの…んあい、ふやうひ、ひやうひ!
はあ、はあい、はあ、はあい…」

カヤ

saya_b04_p02_036
「わいじ…わいじや、もひとひ…、ドーラー、ドーラー…」

カヤ

saya_b04_p02_037
「ほれ、ほれ…ひ、おまえ!」わい、おぬしを締
め付けてしまひ…んん…せあせあ、せあいせあ
…ふわああ…」

カヤ

saya_b04_p02_038
「お腹の奥せじせじわねてひへ、愛液がまだ流れ
てゐ…、おぬしの精液じいぱじ吸け止める準備
してゐ…、あうひひ…」

saya_b04_p02_039

「せあ、せあ、せあひ……あひ、あひへ……おめで
に、精液ひゅーひゅー、ひゅー」

◆位置・正面近距離：キス距離。

saya_b04_p02_040

「わわわ、んひ……んひ……！　おふひ、ああひ……ん
ふひひ……わわわ、口吸われながらイクの好き……
…」

saya_b04_p02_041

「イクのじやあ、いぐ、イクイクイクひ……わわわ、
んひ、わわわ、わわわ……！　んひ、わわわ……
わわわ……」

◆種別：キスしながら射精する主人公

saya_b04_p02_042

「んふひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
わわわ、わわわ、わわわ、わわわ……んひ、ふひひ…
ふひひ、ふひひ、ふ一ひ、ふ…」

saya_b04_p02_043

「わわ、れわひ、わわ……んん……ひゅー精液、来たの
じやあ……熱くて、ひゅーひゅーひゅー、奥に注がれて
る……、さあ、さあ……」

◆位置・正面近：口を離して顔を少し離す主人公。

saya_b04_p02_044

「せーひ、はあひ、はあ……せあひ……はあ……。わ
しも、いつぱい氣をやつてしまつたのじや……はあ、
はあ……んうう……はあ……しあわせじやのお……ふひ…
…」

saya_b04_p02_045

「——」れでわいふ、おぬしにも幸禪が訪れるはず…
大丈夫じゃ… ジヤガのね…」

カヤ

カヤ

カヤ

カヤ

カヤ

カヤ

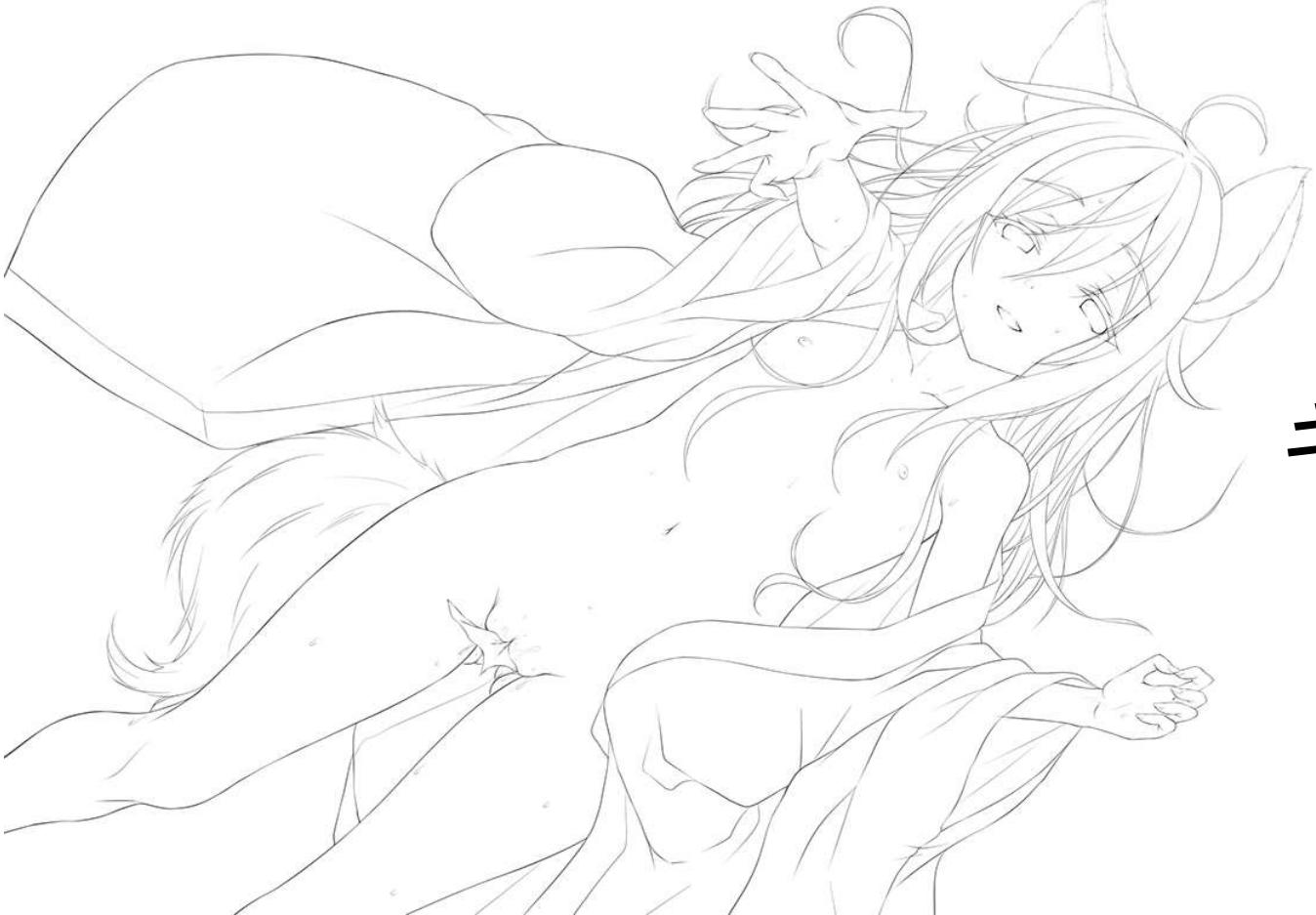
カヤ

サヤ

saya_b04_p02_046

「お何度参り、と申すじやひり? 繰り返す」とで力
は増すのじや。ええい、おぬしよ……もつと、いつ
はい、えつちしそうがい。ふふふ……まだまだ夜はこ
れかりじやへへ」

▼パート2終了



ケモロリ神様
収録台本

キャラクター：サヤ

ファイル：b04_p03

◆□◆僕を守護してくれるケモロリ神様と抱擁応援甘えんばセツクス◆□◆

ハセガワの書籍

◆補足…主人公の部屋。座卓に「」馳走。座布団を並べて座っている一人。距離は隣り合っている普通の会話。

無事に就職先が決まり、主人公をお祝いするサヤ。感極まっている。

●SE… 鍋がグツグツ煮える音。

saya_b04_p03_001
「つづく……」の田が来たのお…グヌシ…ねねー、やね
がんばった、よおがんばったのう~~~~~」

「今頃は宴じゃやつてね。せまい無い内定のシュー
カツローランではない。立派な奉公先に恵まれたモ
ノノフジヤウー」

saya_b04_p03_003
「今日も元気だったわ」と心も感動して…
ス、…な、泣いておひる…」…よかったのね、
よかったのね」

「なに…。改まってわしに話がある…? なにをそ
う畏まる!」とあるか。おぬしとわしの仲ではない
か。…む…わ、わかった。だまつて話を聞く」いつでは
ないか

主人公、サヤに告白。「好きだ、ずっと一緒にいてほしい。最初に見た時から一目惚れだったが、マシな男になるまで告白を控えていた」

saya_b04_p03_005
「なつ……なにを申すのじゃ……？ わしを好きだと申すのか……？ おぬしが……？ ま、『マシな男になるまで告白を控えていた』じゃと……？」

主人公「やつぱりダメか…神様と人間じやな…」

サヤ

saya_b04_p03_006
「はかわのい…おぬしさ田舎いたしからもとわなお
の「じやー…わしも…わしのほり」や…田舎いたと
きの「田せれ、じや…おぬしと一緒にじやな、くし
しつ…」

サヤ

saya_b04_p03_007
「じやが…あの田からおぬしと暮らして…田に田に
好きになつていつたのじや…。頑張り屋、かと思え
ば危なつかしい」といへ。田を離せない、かと思えば
頼もしくなる」とも…くしつ、人の成長は早い
の…」

サヤ

saya_b04_p03_008
「ホリヒ…今日までよつ頑張つた。試練を乗り越え
たおぬしなら、なんにでもなれる。やう—」

◆位置・右隣耳元：顔をぐつと寄せて、耳元で囁き

サヤ

saya_b04_p03_009
「—わしの伴侶にもな。…末永く愛してくれん
じやわづな？ おぬしよ」

主人公、歓喜。興奮し、サヤに抱き着けトキキス。

●SE：抱きつき物音

◆位置・正面至近：キス距離

サヤ

saya_b04_p03_010
「んふー…んひ、ちゅ…ふ、ははー、これこれ…子
犬のよつにじやれつべでない、んひ、ちゅつ…ふあ
…わづがつづくな…んあつ…ちゅう、ちゅふつ…
…んつ…はあ…あう、はあ…唇が、熱い…ぽかぽか
じや…」

サヤ

saya_b04_p03_011
「くしゃ……興奮しておぬよつじやのお…ちゅ、
ちゅ…んひ、れちゅ…ん、ふあ…あつ、んつ…ん
ん…んりゅ、んう…、ちゅりゅつ、ちゅつ、
ふあ…」

サヤ

saya_b04_p03_012
「ぐわぐわと舐ぬまわすでない、んあ……ひ、はあ…
はあ、はあ…んちゅ…あ…」

押し倒され座布団に横たわるサヤ。キスを続ける主人公。

●SE：布団に横たわる

サヤ
saya_b04_p03_013
「はあ、はあ……わしも、身体が芯から火照りてきた
のじや……はあ、はあ…んん……ちゅちゅつ、ちゅつ
ふ…ちゅ…ふ…んへ、ちゅぱつ…」

サヤ
saya_b04_p03_014
「ちゅずつ…れろ…れろおひ…んうへへ、おぬしの舌
が…はあ、はあ…きもちいじ…ひ」

◆位置・正面：主人公、身を起してサヤの足の間まで下がり、足を開く。やけ
れよりすこし離れた距離。

サヤ
saya_b04_p03_015
「あ……な、なにをする…？ そんなど…ひ、あひ…
あひ……わしの、脚を…やむ、そのように開くでな
い、あひ…あ、見えちゅ…んう…濡れてる…おま
ん…」濡れてる…見つかっかやつた…あひ…」

サヤ
saya_b04_p03_016
「なんど…ひ、恥羞たりなやつなのじや…へ、神の『そ
そ』を、やうな田で見つめるなど…欲に濡れた眼
差しが…肌を焼くよ…ひじやの…んう…ああ…見
られて…いるだけで、震えが走る…」

クンニ開始。

◆位置・正面上：主人公、サヤをクンニ。頭は頭の上から聞こえてくるイメー
ジ。

サヤ
saya_b04_p03_017
「あひ…あひ…舌が…？ 熱い…おぬしの舌が
…とひけそうじや…ああ…ひう、んつ…あう、優し
くて…すぐつたい…んう…はあ、はあ…んつ…あ…
あひ…あひ…んあひ…あひ… ふやあひ…」

サヤ

saya_b04_p03_018
「ふわ、ああ……おぬしがつ……愛液を啜る音が……じゅ
るじゅると……ひ、んあひ、せ、恥ずかしくて…
はあ、はあ……」、興奮するのじやああ……ひ、ん
んひ……舌、あ、入つて、くね……ひ

サヤ

saya_b04_p03_019
「あああああ……舌あ……入口に、れれいほが……へ、熱く
て、ぬるぬるして……しゃぶしゃぶ」ぬじておね…」

サヤ

saya_b04_p03_020
「……ひ、んううつ……ト腹の奥から、ぞわぞわと…
はあ、はあ……快感が……身体中に広がつて……んあ、
んひ……」

サヤ

saya_b04_p03_021
「あうひ、ああ……氣が遠くなる……んうひ、あああ…
…はあ、はあ、はあ……ひ、ああああひ…」

サヤ

saya_b04_p03_022
「はあ、はあ……おぬしよ……れぬひに必死に舌を這わ
せし……美味しいのが……ひ」

サヤ

saya_b04_p03_023
「んうひ！ ああひ……一瞬敏感な舌を吸られた
ひ……ああひ、あひ、あひ……やうんひ！ はあ、
はあ、はあひ……」

サヤ

saya_b04_p03_024
「だめ……舐めぬよかわい……あああひ、頭……ふわ
ふわしてくひ……ひ、んあああひ……」

サヤ

saya_b04_p03_025
「ふわ……ひ、やけいほだぬ……ひ、おぬれでやんな
に吸われたらひ……ああああひ……」

サヤ

「ああ、わからぬだら、いやあぬい、体じよがわ
ぞわしゃ……ふおひ……極ごく限ごく感じトシナリハ
……」

サヤ

saya_b04_p03_027
「へへへへへ…………ぬぬぬへ、ぬへ、ぬへ……ぬ
ぬぬぬへ…………」

サヤ

saya_b04_p03_028
「ええい、いや……いやいー。たぶん一ヶ月

サヤ

サヤ

saya_b04_p03_030
「ふうなにペニペニちを出かせよ、アリガムだ、アリ
…… オレ、オレ、オレ、オレ、オレ、オレ、オレ、
——おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、

絶頂するサヤ。

サヤ

saya_b04_p03_031
「——せり、せり、せぬる、せり、せ——る、せ——る、
あい、あい……」

◆位置・正面…主人公、身を起こしてサヤの様子を見る。

サヤ

saya_b04_p03_032
「ふ、いかれちゃつた……ペペペねねて、氣を
やつて……はあ、ああ……腹の底が……震えてるわ
……はあ、はあ……しゃれう……だつ」ソード
だつ」ね……」

◆位置・正面至近・サヤを抱き上げ（対面座位の姿勢）顔を近づける

サヤ

sayab04_p03_033
「ふへ……♪、わよーへ、やのまめ……わよー…
…ふへ……」

◆位置・正面耳元：抱き合ひで主人公の耳元で「や」とく語りかべる

サヤ

sayab04_p03_034
「ふへ、はあ……おぬしよ……そなたのおねぐせも、
見事にこせつ立つおるな……♪」

サヤ

sayab04_p03_035
「あ、あ、入り口探し、」ついで「ふへ」とは…
…くちゅくちゅ、淫猥な音が響いておる……わしの
おまんこが……はしたなく涎を溢れさせ…」

サヤ

sayab04_p03_036
「入れるのか……？ もう入れるのか……？ あ、
あ……」

抱っこしたサヤに挿入する主人公。

sayab04_p03_037
「んあ、あ、あ、あああああああああああああああああ、
あ、

sayab04_p03_038
「んあ、はあ、あー、あ、あー、やあんこ……奥まで
刺さつて……」「れ、しょ！」よおひ……は
うひゅうひゅうひゅうひゅうひゅうひゅうひゅうひゅう

サヤ

sayab04_p03_039
「抱っこ」したまま奥まで入つて、嬉しいのお…
…へ、お腹の奥まで、おぬしでこいつぱいになつてしま
る……♪」

サヤ

サヤ

a_b04_p03_040
「それを一いつにしたまま、奥、ずんずん突き上げてほし
いのじや……はあ、はあ……あつ、あつー、あつ、
あつあつ……♪」

サヤ

a_b04_p03_041
すん、すんへ すんへ、すんへ、ああへ……
ひやへ、あへ、あひへんへ…… んへ、おへ、れや
へへへー」

サヤ

a_b04_p03_042
ふあああひ、ふあひ、あひぐひ、黙じひ……んあ、
あひ、あひー、あわわうひ……奥ひ、囁くたびひ…
意識がつ……飛ぶつ……」

サヤ

saya_bp04_p03_043
「えへへ、んへ、あへ、せへ.....せへ、あへ、あへ.....あへ.....あへ.....あへ.....あへ.....」

サヤと舌を絡ませ合いながら。ピストン加速⇒射精する主人公。

サヤ

saya_b04_p03_044
「せふへ、ちゅうへ……んへ、んへ、んふへ……へ
わねへ、んねへ、ちゅうへ、れねへ…」

サヤ

saya_b04_p03_045
「ふわあ……舌吸われながら奥突かれるの、あわちいこ
…………もひとね……ちゅう、じゅず、じゅわゅう、
れりおひ」

サヤ

saya_b04_p03_046
「…………はああひ、はあひ、んぐうひ、んひ、んああ…………
おぬしの睡…美味しご…もひと…んつ、んつ…………」

サヤ

saya_b04_p03_047
「ふあ……んぐう、ちゅ……んふううう、んあう、ん
わあう……んんう……んう、かゅうう…」

「ちや、あい……イクのか……？　おぬし……ひや、
ひや、ひ、せうて……ひ、ひ、ひ、ひ、ひ、ひ、ひ、ひ、
れいねい……」

◆補足：「んっ、んんんんんんんっ…………！」で主人公射精＆サヤ絶頂

「さあさあ……さあさあ、はあはあ、はあひ……
ちゅ……ちゅう、はあ、れひう、ちゅう、ちゅ、ちゅ、
ちゅ、ちゅ、ちゅ、ちゅ、ちゅ、ちゅ、ちゅ、ちゅ、ちゅ、

「さあ、さあ……さあ……」かき一丁だま
せ……おひよーひよー丑せれトイクのね……あわ
かこね……さあい、さあい……」

saya_b04_p03_051
「はあ、はあ……はあ……」さういふちゅーしたま
ま……中にびゅーびゅー出されていくのね……せも
ちいよお……はあつ、はあつ……」

一旦抜く主人公。だが、サヤから求めて2リウンド田く。

◆位置・正面・抱きとめていたサヤを解放する主人公。サヤはお尻をむけて四つ
ん這い

「んつ……はあはあ、はあはあ……んつ……おぬし
よお……もつと、ちゅーひー、じー、」

四つん這いのサヤに挿入する主人公

◆位置・正面下・サヤの腰を掴んで後ろから挿入。

サヤ

「ふやああああい…………させなうい……せたああい…………、
後ろから突き上げられて、いつもと違う場所に
当たるい、」「うううう、擦りて、れわわうう…………、
はあ、はあい、あうい、あうい、あうい、あうい、
んい…………」

サヤ

はあ、はあっ、はあっ…尻尾が「ふう、ふう、お、お、お」…止まらないのじゃ…おぬしのねがんせ氣持ちよす
あひ…」

◆演技.. サヤの喘ぎ声、以降犬っぽさも意識してください。

「あうんつ、あんつ、あんつ……ひゃんつ、あんつ……はあ、はあ……あつ、あつ、あんつ……」

「わしの華奢な腰を……れよつな運しご腰でがつしゃ
掴んで…雄々しい腰つきが…わしの奥もぢつ、おち
んぽすんずんつて…貫いて…」

ナニヤ
saya_b04_p03_059

「ううんつ、あうんつーはあつ、はあつ、もつとつ

「うん、ねんーー！ まあ、まあ、もう少し！」
……

「トヤの妹アリス、お母さん、お父さん。お姉さん、お兄さん

はては、ほしゅうしてほしおう、
はあ「

「はあつ……」

saya_b04_p03_064
「はあ、はあ、おぬしのでっぱりが…お腹のうひつか
ね！」うううするう…つ。んあ、あつ、あ…また、
入つて…くるつ、んううつ…」

「んっ、あああっ……匂いでるっ……わしの子姫!!
ちゅーしてるうつ、あううう、くうくう!!
はあ、はあ、はあっ…」

saya b04 p03 066
「子宮ひくひくしてるのじゃつ……赤ちゃん汁が欲しくてお腹の底が熱いのおつ……」

「我」の「我」は、『我』の「我」の「我」だ。

saya_b04_p03_068
「やのたくましげおちんぱから、生命力じいせいの子種をひゅーひゅーと…わしの底に注いで、『ややこ』を孕ませてほしぐじやあつ…。」

サヤ

saya_b04_p03_069
「ねじりせわう夫婦じゃねー? 子供を授かって、
ともに愛を注げ……」

サヤ

saya_b04_p03_070
「あー、あー……ふくらんぐる……おちんぽ、おまんこ
なかでふくらんでるのねー……」射精したくてびく
びくしてゐ……おぬしのおかげせひくべしれる……」

サヤ

saya_b04_p03_071
「いりせじ氣持ちよくなつて、もつとねしを突き上
げて、射精するために、いりせじいせじ感じ
てえ……」

サヤ

saya_b04_p03_072
「おぬしの精液、はやく、はやく……あー、
あー、ああー、あうそー! 奥、くいり、んあ
いー、くいり、くいり、くいり……」

サヤ

saya_b04_p03_073
「ふやあー、ああー……子宮すくさんついておぬし
のおかんせ腫いでる……へ、子種欲しくて疼いてるつ
……んいり、ふやああああうー……」

サヤ

saya_b04_p03_074
「あー、あー……じくのじや、わいり、イク、一緒
に……あー、じく、じく、じく……」

射精する主人公。サヤも同時に絶頂。

saya_b04_p03_075
「んやあー、あー、ああああああああー、イ
クララ、うー、はー、うー、うー……」

…

サヤ

saya_b04_p03_076
「はー、はー、はー、はー、はー、なかあー、
あー、うー、どくどくへそつて、膣も出しちるつ…

…

サヤ

saya_b04_p03_077
「おぬしの千種が……わしの脂を満たしてゐる……なんと温かいのじや……は、はあ……わしさ……」とも幸せじや……」

サヤ

saya_b04_p03_078
「はあ、はあ……よく、がんばつたのう……おぬしよ……やつこつ頑張り屋さんなどいろが、大好きじや……」

しゃせし余韻を味わう一人。落ち着き、言葉を交わす。

●SE：布団に横たわる

◆位置・正面：並んで寝転んでローテーク

saya_b04_p03_079
「ふう……おぬしよ。おじとこ、立派になつたのう……あれほど雄々しく、力強く、頼もしく抱かれてしまつてはな……実感せずにはおれぬ……」

サヤ

saya_b04_p03_080
「ふう……氣持ちよかつたのじや……まだ身体中が、ぴりぴりと痺れるようじや……せふう……んん……。すうすう……やへじや、わひとナテナテせい……」

♪

サヤ

saya_b04_p03_081
「もふもふ、好きなんじやうう……? ほれほれ、今宵は特別じや。尻尾も触つてよいぞ。……んふ、んつんん、ん……ふう……」

サヤ

saya_b04_p03_082
「」れか、も毎日……わしさおぬしの世話をとして夜は「」つして、伽に励む。こずれまことに千も成して……幸せな家庭を築くのじや……一緒に、な……」

◆位置・正面至近：キス距離。おでこにさすと感じぬイメージ。

サヤ

saya_b04_p03_083
「」わしもまだまだ未熟な神じやが……」「れか、も末永く、甘えて良いのじやや~」

